

### 3-3. 設備投資費用の推計方法

設備投資費用は、渇水となった際に、汲み置きの水の使用、風呂の残り湯の再利用、ため洗い等の節水行動を実施するために必要となるもので、給水制限率に応じて、購入する費目が変わるものとする。

表V-3-3-4に設備投資費用の費目、購入費用、使用可能日数を示す。

また、設備投資費用は渇水の際に1回だけ購入するものであることから、1人1日当り費用とするためには、費目別に1世帯当りの購入費用を世帯人員で除し、稼働率（使用日数÷使用可能日数）を乗じることとした。

$$1 \text{ 費目の設備投資費用} = \text{購入量} \times \text{単価} \div \text{世帯人員} \times (\text{使用日数} / \text{使用可能日数})$$

ここに、

世帯人員は、2.55人/世帯とする

使用日数は、過去の渇水実績等を参考に1ヶ月程度を見込む

表V-3-3-4 設備投資費用の費目、購入費用、使用可能日数

費目	購入量(世帯) <sup>(注)</sup>	単価(円/個)	使用可能日数(日)
10ℓポリ容器	3	1,000	365(耐用年数1年)
10ℓポリバケツ	1	300	365(耐用年数1年)
たらい	1	300	365(耐用年数1年)
小型ポンプ	1	3,000	1,095(耐用年数3年)

(注)世帯人員2.55人/世帯(H17国勢調査全国値)≒3人とし、10ℓポリ容器は人数分(3個)購入